

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立以来かかげる「六綱領」(自主・自律・堅忍・果敢・創造・開発)を基に、生徒の個々の夢を実現させる教育活動を実践し、社会人として自立でき、地域や社会に寄与する人材を輩出する。厳しく寄り添い、生徒・教職員がともに学び、ともに伸長することにより、「生徒・教職員にとって、楽しく伸び伸びと力を発揮でき、夢の実現に主体的に活動できる学校」、そして、地域との交流・連携を推進することにより、生徒・保護者・地域から愛され、信頼されるとともに、「地域に学び、地域とともに歩む学校」をめざす。

①夢を育み自立できる生徒を育成する学校 ～ キャリア教育・学習指導の充実 ～

生徒の持つ能力を掘り起こし、生徒の資質を磨き上げながら、「将来の夢について、自身で、自信を持って語ることでできる若者」を多く輩出できる教育活動を展開する。

②厳しく寄り添いながら生徒を指導・支援できる学校 ～ 生徒指導・支援体制の拡充 ～

様々な課題を抱えた生徒一人ひとりに対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校との連携を強めながら、できる限りの支援や指導を行う。さらに教職員個々が生徒の教育者であり、且つ、“生徒の応援者”としての機能を十分に発揮できる教育環境を構築する。

③地域とともに歩み、地域に愛される学校 ～ 地域連携の深化 ～

地域との連携を密にし、地域の豊かな自然環境や人材・施設等を活用した教育活動を展開し、地域力を積極的に取り入れながら、生徒の「豊かな心」、「生きる力」、「自尊感情」、「規範意識」を育成する。

## 2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、「基礎学力の向上と定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」「主体的で対話的な深い学び」をめざした授業改善を行う。

ア 数学・英語において「習熟度別少人数展開授業」を実施する。生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、進路に応じた選択科目を設定することで、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。また、教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等をとおして「授業改善」を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の授業理解度を3年後には80%とする。(H29…69、H30…69、R01…72%)

イ 図書館を学校での学びのセンター的機能を持つ場と位置づけ、本に親しむ場、自学自習できる場、調べ学習や調べたこと・学んだこと・考えたことを発表できる場としての環境整備をすすめるとともに、その利活用の推進を図る。

※図書館利用者数を3年後には年間7000人とする。(H29…1811、H30…2078、R01…5365人)

2 生徒支援体制の整備と充実化

(1) 将来の自分の生き方を設計できる力をつけることがキャリア教育であると考え、全ての教育活動をこの観点で踏まえ実践する。また2022年度からの成人年齢の引き下げを見据え、「総合的な探究の時間」とLHR等を活用し、キャリア教育や人権教育・道徳教育等を総合的に実施し、美原の志学を確立させる。

ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等全ての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。そのために入学から卒業までの3年間を見通した指導計画を策定する。外部人材や地域・施設の活用を積極的に取り入れ、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。特に1年生に対して、進路に対する明確な意識を持たせることができるよう指導する。

イ 「総合的な探究の時間」「LHR」を中心に、3年間を見通した人権教育・道徳教育の指導計画に則り、人権意識の向上を図る。課題を抱える生徒の情報について学年、人権教育委員会、支援会議で共有できる体制を作る。

※進路未定率を限りなく0%に近づける。(H29…1.3%、H30…0%、R01…1.4%)

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には85%とする。(H29…79%、H30…75%、R01…82%)

(2) 「ええもんはええ あかんもんはあかん」を原則に「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導を実践する。計画的に生徒理解の研修等を実施することにより意識と質の向上を図るとともに、傾聴と守秘の姿勢で生徒に向き合い、その声を受け止め、生徒理解を深める。

ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。

(3) 相談室の常駐体制と3Cルーム(Counseling・Coaching・Conference)の活用を図り、生徒が安心して相談できる環境を整備する。また、SCを活用し校内の相談体制を充実させる。支援コーディネーター、支援会議を中心に、中学校や相談機関、医療・福祉等関係諸機関との連携の深化を図る。

(4) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動等を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 体育専門コースの充実を図り、活動を地域にも広げ、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。

※転退学者及び留年生の減少

3 地域と連携した安全・安心で魅力ある学校づくり

(1) 地域への広報活動に積極的に取り組み、美原の良さをアピール、入ってよかった学校をめざす。

ア 中学校訪問、学校見学会や学校説明会等のさらなる充実を図り、美原に入りたい生徒を増やす。

イ HPをはじめICTの活用をさらに進め、広報活動を充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事の肯定度を3年後には85%にする。(H29…78%、H30…75%、R01…77%)

※保護者向け学校教育自己診断における学校が提供する情報の利用度を3年後には75%にする。(H29…54%、H30…66%、R01…65%)

(2) 地域の関係諸機関との連携を密にし、地域とともに歩み、生徒が安全で安心して過ごせる学校をめざす。

ア 地域と連携した生徒の自主的な活動を推進することで、生徒の自己有用感を高める。

イ 地域と連携して生徒が安全で安心して学校生活を送ることができる取組を推進する。

ウ PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。

エ 地域の国際交流を推進する団体等と連携した国際理解学習、国際交流活動を推進する。

オ 外部人材の活用等により、職員の時間外労働時間の縮減をめざす。

※学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を3年後には生徒・保護者とも70%にする

(H29…生徒50%、保護者57%、H30…生徒53%、保護者56%、R01…生徒60%、保護者60%)

※学校教育自己診断における国際理解教育に対する肯定度を3年後には生徒・保護者とも80%にする

(H29…生徒76%、保護者63%、H30…生徒69%、保護者66%、R01…生徒70%、保護者67%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と学びへの主体性の育成	<p>(1)基礎学力の向上と定着をめざした授業改善の取組み ア 生徒実態に応じた「わかる授業」「主体的で対話的な深い学び」の展開</p> <p>イ 新学習指導要領を見据えたカリキュラムマネジメントへの組織的な取組みと教員力の向上</p> <p>(2)図書館の環境整備とその利活用の促進 ア 図書館利用を促進する環境整備 イ 図書館を活用した主体的で対話的な学びの定着</p>	<p>(1) ア・習熟度別少人数展開授業(1年・英語、数学)の実施やICTを活用した個別学習等により、基礎学力の定着を図るとともに学習を大切にする心を育む。 ・ステップコンテストや少人数展開授業(3年・国語、英語)等により、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。 ・グループワークやプレゼンテーション等「主体的で対話的な深い学び」となる授業研究をすすめる、授業改善の取組みを推進する。</p> <p>イ・「評価と指導の一体化」の観点を踏まえた公開授業・研究授業の実施や授業アンケート結果の分析を行い、新学習指導要領を見据えた授業改善・授業力の向上を図るとともに、経験年数の少ない教員を中心に他校種の授業見学を実施し、教員力の向上をめざす。</p> <p>(2) ア 学習に利用できる書籍の拡充(地域の図書館との連携も含む)ICT環境の整備 イ 調べ学習や探究活動等図書館を活用した授業(グループワーク・調べ学習・探究活動)の推進</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「勉強することは大切」(R01…81%)「少人数によるきめ細やかな指導」(R01…72%)昨年以上に ・少人数展開授業での生徒満足度を高める R01 満足度(1年数学 79%・英語 90%・3年国語 98%・英語 95%) ・授業アンケートでの「授業の様子」の評価の平均を昨年度の水準以上に「(R01…3.46)」</p> <p>イ・公開授業月間の実施(2回)、 ・自己診断(生徒)「教え方の工夫」(R01…79%)「授業はわかりやすい」(R01…72%)を昨年度以上に</p> <p>(2) ア 公立図書館からの団体貸出数(R01…180冊)昨年以上に イ 図書館利用数並びに貸出数を昨年以上に(R01…5365人[うち授業2435人]・933冊)</p>	(1)
2 生徒支援体制の整備と充実	<p>(1)キャリア教育、人権教育の推進 ア 3年間を見通したキャリア教育による進路実現</p> <p>(2)「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導の実践 ア 生活習慣の確立と豊かな人間性の涵養をめざした生徒指導</p> <p>(3)個に応じた支援体制の充実 ア 学校生活を送るうえで、様々な課題を抱えた生徒の支援の充実</p> <p>(4)生徒の自己有用感の醸成 ア 生徒の主体的な活動の充実 イ 体育専門コースの充実</p>	<p>(1) ア・「総合的な探究の時間」等で自己の在り方生き方を考える機会を設ける。3年間を見通した計画に基づき進路指導の充実を図り、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。</p> <p>(2) ア・全教職員がベクトルを合わせ一人ひとりの生徒が安全で安心してしっかりと学べる環境を維持・発展させるとともに、生活習慣確立をめざす取組みを実施する。(登下校指導、遅刻指導、校内巡回等) ・いじめアンケートの実施や SNS をめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。</p> <p>(3) ア・学習においてさまざまな困り感を抱える生徒に対する支援を情報共有しながら、組織として学習を支援する体制を整える。 ・支援会議を教育相談の中心に位置づけ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。</p> <p>(4) ア・体育大会、文化祭等生徒が主体的に企画・運営・参画する行事を充実させる。 ・部活体験の実施(1年)など部活動の成果を発表する機会を増やすことなどにより、部活動を顕彰する。 ・地域中学生参加による部活動大会(美高杯)については、実施時期や方法を検討したうえで実施するとともに、生徒の地域のイベント等への自主的な活動を推奨し、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。</p> <p>イ・特色ある授業の展開や防災教育の観点を取り入れた校内での野外体験実習の実施等により、生徒の達成感を醸成する。</p>	<p>(1) ア・学校斡旋就職1次内定率昨年以上に(R01…86%)、第一希望の大学・短大・専門学校等への進路実現率を昨年度以上に(R01…97%) ・生徒向け学校教育自己診断「進路についての適切な指導を受けられる」肯定度(R01…82%)を昨年以上に</p> <p>(2) ア・遅刻回数(校務処理システムによる遅刻カウント数)一人平均1.2回以内をめざす(R01…1.2) 生徒向け学校教育自己診断における「生活指導」に関する肯定的意見、昨年以上に(R01…70%) ・生徒向け学校教育自己診断における「人権」に関する肯定度(R01…81%)昨年以上に</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断における「親身に相談に応じてくれる」生徒・保護者の肯定度(R01…生徒73%、保護者73%)、保護者「相談に適切に応じてくれる」(R01…79%)、昨年以上に</p> <p>(4) ア・生徒の学校行事に対する満足度、昨年以上に(R01…77%) ・新入生の部活動加入率50%以上(R01…43%) 学校教育自己診断における「部活動はさかん」肯定度(R01…生徒58%、保護者67%)を昨年以上に ・地域のイベントやボランティア活動に参加した生徒の数(R01…127人)</p> <p>イ・体育専門コース選択生の満足度を昨年以上に(R01…2年生94%、3年生100%)</p>	(1)

<p>3 地域と連携した安全安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動を強化し、学校の魅力の発信 ア 広報活動のさらなる充実  イ ICT 等を活用した情報提供  (2) 地域と連携した取組みの推進 ア 地域と連携した生徒の自主的な活動の推進 イ 安全・安心を高める取組みの推進  ウ PTA 等と連携した教育環境整備  エ 国際交流・国際理解教育の推進  オ 業務の効率化の推進、職員の時間外労働時間の縮減</p>	<p>(1) ア・旧7学区以外の中学校への広報活動を実施するとともに近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。 イ・HP を随時更新することで、本校の取組み等を発信し、広報に努めるとともに、メール配信等により、保護者へ迅速(非常変災時の対応など)かつ適切な情報提供を行う。  (2) ア・地元の各種イベントへの参加や協力等を通じて、生徒の自己有用感を高める。 イ・PTA や地域の外部機関等と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みをすすめる。(熱中症対策や防犯・防災、交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等)  ウ・PTA と連携した校内緑化活動の実施・PTA や同窓会等と連携した教育環境整備の推進  エ・地域の国際交流協会を推進する団体等と連携した国際理解教育を推進するとともに、生徒の海外語学研修を実施する。 オ・ペーパーレス会議の実施等、業務の効率化を進めながら、職員の意思疎通やコミュニケーションの活性化を図る。また、最終退勤時間の目標時刻の見直し等の取組みにより、時間外労働の縮減を図る。</p>	<p>(1) ア・学校や地域での説明会の参加者数・満足度昨年以上に (R01…参加者 664 人・満足度 95%)、  イ・HP の更新回数昨年以上に (R01…70 回) ・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度、昨年以上に (H31…65%) 保護者向けメール配信回数昨年度以上に (H31…50 回)  (2) ア・地域のイベント等への生徒参加回数・人数、昨年以上に(R01…12 回・127 人) イ・自転車の交通事故件数の減少(R01…52 件)  ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度(R01…生徒 60%, 保護者 60%)を昨年以上に  エ・学校教育自己診断「国際理解教育」の肯定度(R01…生徒 70%, 保護者 67%)の向上  オ・職員の平均時間外労働時間を前年以下の水準に</p>
-------------------------------------	--	--	--